

扉

認知症の母を
老人ホームに入れた。

藤川幸之助

認知症の老人たちの中で
静かに座って私を見つめる母が
涙の向こう側にぼんやり見えた。
私が帰ろうとすると
何も分かるはずもない母が
私の手をぎゅゅとつかんだ。
そしてどこまでもどこまでも
私の後をついてきた。

*

私がホームから帰ってしまうと
私が出ていった重い扉の前に
母はぴったりとくっついて
ずっとその扉を見つめているんだと聞いた。

それでも

母を老人ホームに入れたまま
私は帰る。

母にとっては重い重い扉を
私はひょいと開けて

また今日も帰る。

『満月の夜、母を施設に置いて』（中央法規）

2015 佐久大学同窓会 講演会

支える側が支えられるとき

～認知症の母が教えてくれたこと～

講師 藤川 幸之助 先生

2015年10月24日（土）

9：30～11：30

（会場受付 9：00～）

会場 佐久大学 2300 講堂

入場無料

（申し込み不要）



詩人・児童文学作家。
日本児童文学者協会会員。
1962年生まれ。長崎大学
教育学部大学院修士課程
修了。認知症の母親に寄り
添いながら、命や認知症を
題材にした作品を作り続
ける。（写真：読売新聞社）



佐久大学

佐久大学同窓会秋桜会

〒385-0022 長野県佐久市岩村田 2384

TEL 0267-68-6680

FAX 0267-68-6687

E-Mail cosmos@saku.ac.jp